

東北山スキーと温泉の集い

1990年3月10日～11日

二岐温泉

恒例の東北の山スキー仲間との交流会に参加した。今年の幹事は福島キャンの奥田さんで、会津の二岐山周遊で行われた。我々はいつも顔を出すだけ。ただただ感謝するのみである。参加メンバーはゼフィルス3名、キャン5名、仙谷の仲間が4名、当会が5名、それに山塾の岩崎さんがスキーなしで参加された。テレマーカーはゼフィルスの大塚さんだけだった。

10日はゼフィルスとキャンと当会のメンバーが二岐山へ登り、思いのほか雪がなくて充分山スキーが楽しめた。これに気を良くして翌11日もと思ったのだが、取り付きまで行って当会のメンバーの一部がヤル気を無くし、スツタモンダしてしまい、少し恥しい思いをしてしまった。他のメンバーはロープをフックスしたりでヤル気満々なの。当会のメンバーは、先日の雨ヶ立山などもそうだが、少し淡泊というか、諦めが早過ぎる、そんな気もした。反省(決断力に秀れている作野、矢野のコンビは早々に引き揚げてしまった。)

小白森山

3月11日(快晴)

温泉から林道(除雪中)を最初の橋の所まで進む。取付予定の所だ。ところがこの周りの山腹は急斜面で取り付くシマがない。小泉氏らが早速ロープでルートを確認する。さすがだ。一段高い所へ登ってからシールで歩き始める。スキーなしの岩崎氏と奥田、細川の両氏は夏ルートに登るということ引き返し、残りのメンバーがこの尾根に登

ることになった。

当初この尾根を滑る予定だったのだが、思ったより雪が少ない。ヤブが多い。結局ここは登りだけにして、下りは夏ルートにしようということになった。結構急だった。雪が少なかつたり、暑くてシールにバットリ雪が着いてしまつたりで、たっぷりの大汗をかきながら、やっと稜線の1308m付近に到着。ホッとす。少し登ると、温泉からも見える大斜面の基部に着く。代採跡の斜面で思ったほど傾斜はない。山頂へは右手の尾根をシールのまま登れた。山頂の展望は大きく、いろいろ見える。昨日登った二岐山がすぐ近くに見えるが、南面のため雪が少なそうなのと、ブッシュが若干多そうだった。

広い山頂では先行の3名が、すでに休養充分といった感じでスタンバっていた。シールで登るより、戻ってでも登山道に登る方がずっと早いという、マカ不思議の山だ。

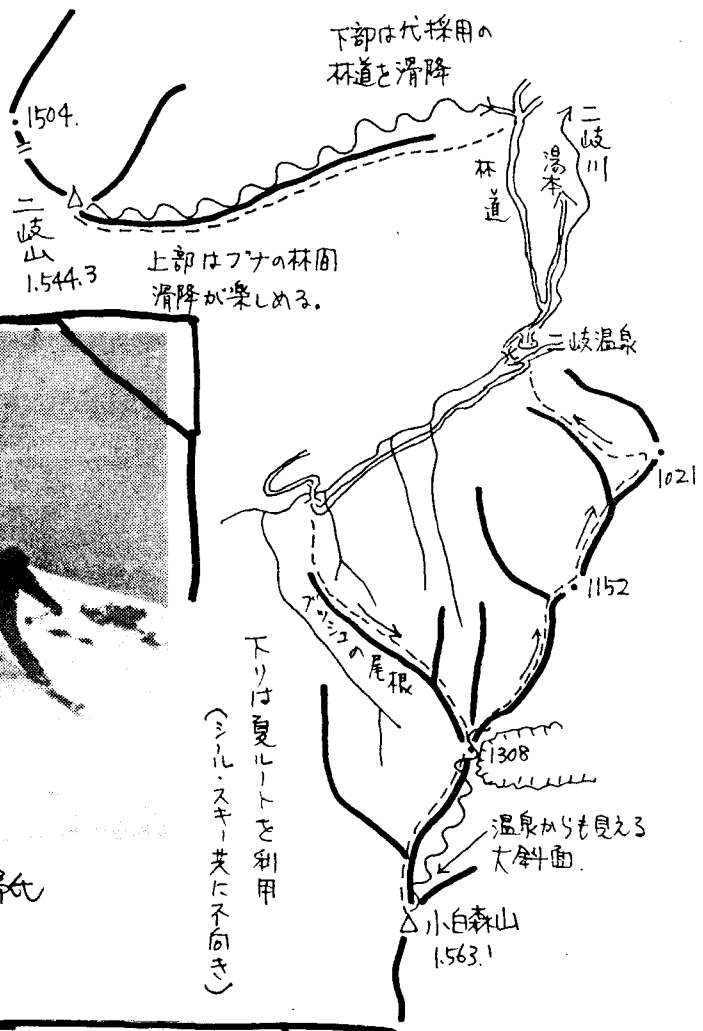
下りは山頂でスキーをはき、先程へ急斜面の頭まで尾根を滑る。大斜面は楽じていたほど雪質が悪くないので、皆思い思いのシュパールを描く。すぐに基部まで滑ってしまい、あとは狭い切り南の道をスキーをぬいだり、またついたりしながら登山口へ下った。

温泉で解散となり、我々は早く帰ったのですぐに帰ってしまった。

奥田さんお疲れ様でした。(菅沼)

コースタイム

温泉 8:30 → 取付 9:00 / 10:00 → 稜線 12:00
小白森山 12:30 / 13:00 → 温泉 14:20



ニ岐山山頂直下の作野沢



ニ岐山山頂にて